

会議報告

さけます関係研究開発等推進会議 研究部会

ふくわか まさあき おおくま かずまさ

福若 雅章・大熊 一正（北海道区水産研究所 さけます資源研究部）

はじめに

平成 28 年 8 月 3 日に「平成 28 年度さけます関係研究開発等推進会議 研究部会」、それに先立つ 8 月 2 日に「サクラマス分科会」を札幌市で開催しました。本部会は、さけます類に関する研究開発等を効率的かつ効果的に推進するために設置され、関係道県の試験研究機関等との情報交換を密にし、相互の連携強化を図ることを目的としております。昨年度まで併せて開催しておりました「成果普及部会」は、今年度から開催形態を変え、「さけます報告会」として開催しましたので、別稿として会議報告を掲載しております。



写真 1. 「研究部会」会議全景。

研究部会

本会議は 8 月 3 日 9 時 30 分から 12 時 30 分に 9 道県の試験研究機関、水産研究・教育機構（以下、当機構）、およびオブザーバーとして 2 大学、1 国立研究所、5 道県の水産行政部局から合計 26 機関 60 名の参加の下で開催されました。主催者である北海道区水産研究所中津所長の挨拶の後、議事に入りました。



写真 2. 主催者挨拶：北海道区水産研究所 中津所長。

サクラマス分科会への付託事項

はじめに会議の進め方について議論し、その結果としてサクラマス分科会への付託事項を「サクラマス資源の保全や増養殖による持続的かつ安定的な生産を実現するための、関連する試験研究および技術についての情報交換や構成者間の連携強化ならびに新たな試験研究の企画・立案」とすることが了承されました。

計画、および資源・増殖に関するモニタリングデータを記録した CD を配布し、試験研究機関間での情報の共有を図りました。

各機関の研究開発の実施状況

各道県試験研究機関および当機構の平成 28 年度のさけます関連研究開発課題の一覧表に沿って、各試験研究機関から主な課題の調査研究計画と結果概要が紹介されました。オブザーバーである（研）土木研究所および各大学からも研究結果の概要が紹介され、さけます研究が水産分野だけでなく広く行われていることが窺われました。

また、各試験研究機関が行った平成 27 年度のさけます標識放流結果と平成 28 年度の標識放流

研究トピックス紹介

平成 28 年度に北海道・岩手県の試験研究機関・増殖団体と当機構がジョイントベンチャーを組み水産庁から受託した「サケ資源回帰率向上調査事業」の調査計画を北海道区水産研究所から紹介しました。この事業は、昨年度まで 3 か年にわたり実施されていた「太平洋サケ資源回復調査事業」の後継事業でもあります。

次に、北海道大学の上田 宏 特任教授から「生理活性物質投与による高回帰性サケ創出の試み」と題して、これまでの長期間にわたるご研究結果に基づいた新たな技術による安定的なさけます資源増殖のためのご提案をお話されました。

サクラマス分科会

本会議は、研究部会の下で、より詳細にサクラマスに関する議論を進めるために設置された専門の分科会です。平成 28 年度は 8 月 2 日 13 時 30 分から 17 時 00 分に道県の試験研究機関・行政部局、当機構、および水産庁（オブザーバー）の合計 15 機関 32 名の参加の下で開催されました。

昨年度から各機関が実施しているサクラマス資源再生産実態モニタリングの実施状況と結果について、各機関から報告が行われ、実施上の問題点について意見交換を行いました。これに基づいて今年度における秋以降の調査方法を検討し、各機関の実情に合わせて実施することとしました。

また、各機関独自の取り組みや研究結果の報告を行い、内容について意見交換するとともに、今後の共同プロジェクト研究の提案内容についても検討しました。さらに、サクラマス資源状況に関する情報交換を行い、引き続きデータ収集に取り組むことも確認しました。

併せて、内水面関係研究推進会議に提案されたサクラマス関係の共同研究ニーズについても検討を行い、中央水研から対応案を内水面関係研究推進会議に提案することとなりました。

サクラマス資源は日本全体では長期間低迷が続いていますが、ごく一部の地域では回復しつつあるという情報も聞こえてきております。回復傾向がすべての地域に広がるように、今後も各地域の試験研究機関が力を合わせてサクラマスの資源回復に取り組む必要があります。

おわりに

さけます資源は、日本の漁業資源の中でも最重要資源の一つです。とくに北日本では、各地域で



写真 3. 研究トピックス紹介:北海道大学 上田特任教授.



写真 4. サクラマス分科会報告:著者(大熊).

加工業や流通業など水産業関連産業への波及効果も含めて、経済上の重要性が非常に大きいです。私たち、試験研究機関でさけます資源を担当する者は、このような会議を通じて研究情報の交換を進め、すべての地域でさけます資源を安定的に供給するための資源造成方法の策定にさらに努力する必要がありますと考えております。